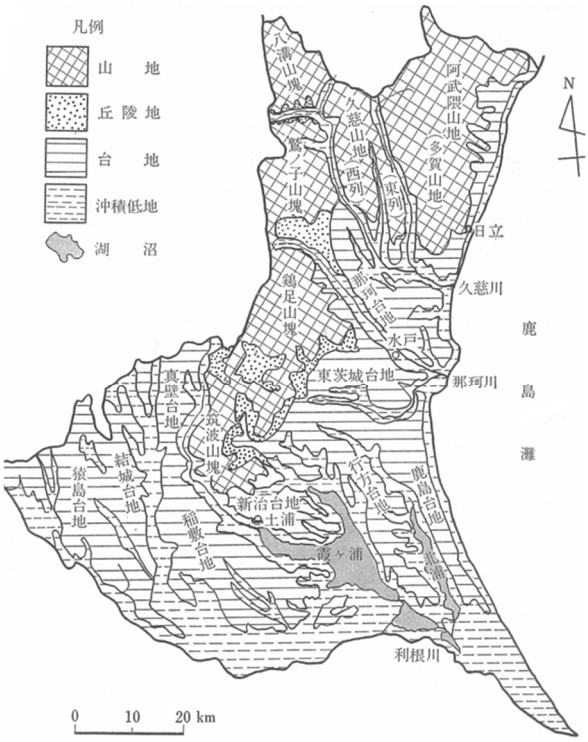
日立市の地勢と気象



日立市は、茨城県北部の県北地域に位置する。北は高萩市に、南は東海村に、西は常陸太田市に接している。市の東側は太平洋に面しており、市の北部を東西に十王川が、市の南部(東海村との境)を久慈川が、久慈側の北を茂宮川が流れている。十王川は、高萩市と常陸太田市との境に位置する堅破山を水源とする二級河川(県管理)で、流路の十王ダム(県日立市十王町)を経て太平洋に注ぐ。久慈川は、茨城県、福島県、栃木県の三県にまたがる八溝山を水源とする一級河川(国管理)で、日立市と東海村の境を経て太平洋に注ぐ。茂宮川は、常陸太田市の南東部を水源とする一級河川(県管理)で、日立市で太平洋に注ぐ。

地形は、海沿いが沖積低地で内陸側は台地、市の西側の大半は山地(多賀山地／阿武隈高地南部)で、久慈川を境に北側が多賀山地の南端、南側が関東平野の北端である。主な山としては、市の北西部に竪破山(標高 658m)が、市の中央部に神峰山(標高 587m)や羽黒山(標高 490m)が 、西部に高鈴山(標高 623m)などがある。

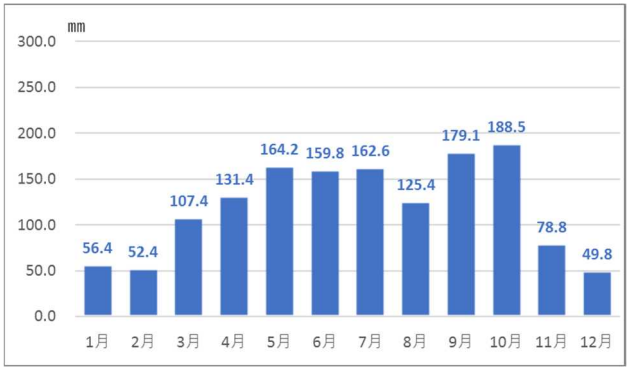


茨城県の地形区分(出典:茨城県 地学のガイド;1977, コロナ社)

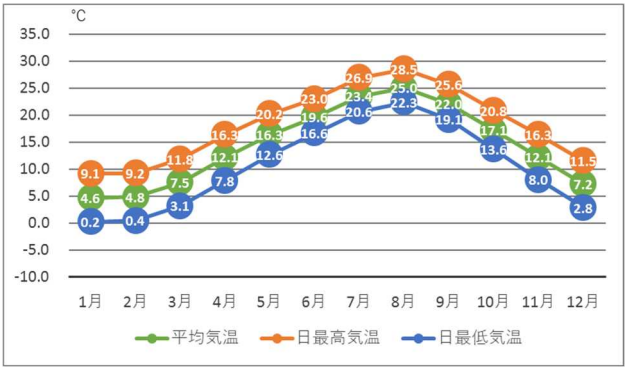
気候は、太平洋側気候で、東部沿岸地域では海岸気候の特徴を、山岳地域では山岳気候の特徴を併せ持つ。夏季は、太平洋高気圧から吹き出す南よりの風の影響で高温多湿となり雨も降りやすい。冬季は、乾いた北西の季節風が吹き、晴天の日が多く、降雪は少ない。沿岸地域では、黒潮等の海洋の影響を受け、気温変化が小さく温暖で湿度が高い。また、海岸では強い風が吹きやすい。山岳地域では、複雑な地形の影響を受けるため、気候の地域差が著しい。

降水は、冬は少なく、春から夏にかけては梅雨前線の影響などで徐々に多くなり、秋は秋雨前線や台風の影響などで更に多くなる。年降水量の平年値は、沿岸地域(日立)で1455.7 ㎜である。

気温は、夏に 35° C 以上の猛暑、冬に −5° C 以下となることもあるが、平年の気温(日立)は、夏季の日最高気温が 28.5℃、冬季の日最低気温が 0.2℃で、年平均気温は14.3℃である。



日立の降水(月ごとの平年値) 1991 年～2020 年の統計値



日立の気温(月ごとの平年値) 1991 年～2020 年の統計値

日立の平年値・極値はこちらから

https://www.data.jma.go.jp/stats/etrn/index.php?prec_no=40&block_no=1011&year=&month=&day=&view=